

## 連載 地域新電力②

# 公共施設への電力供給

今回は、かけがわ報徳パワー(株)の設立目的の1つ「脱炭素化」にフォーカスし、地域新電力の特色や電力供給のこだわりについて解説します。

(問)環境政策課(☎21-1218)

### 安定的な電力供給を行う地域新電力

平成28年4月に電力小売りが全面自由化され、全国に10社ある大手電力会社以外に電力販売業へ参入する会社が増えました。これにより、一般家庭を含む全ての消費者が電力会社を自由に選択できるようになりました。この新規参入した会社を「新電力会社」と呼び、このうち、自治体や地元事業者、市民などが出資したものを「地域新電力会社」といいます。

大手電力会社から切り替えて、「停電の増加」や「停電時の復旧が遅くなるのでは」との質問がありますが、どの会社と契約しても同じ電力送配電網を利用するため、これまで通り電気は安定的に供給されます。

### 地産電力の循環進め脱炭素化へ

2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向け、市内の公共施設や事

業所、家庭での地産電力の利用率を最大限高めることが重要な取り組みの1つです。コロナ禍であっても、市内の使用電力について脱炭素を目指します。

### 公共施設の使用電力を再エネで

令和3年4月から、市内公共施設に設置された5基の太陽光発電所と、沿岸部に設置された6基の風力発電所で発電された電力で、市内公共施設はほぼ全量を賄うことができます。また、電力料金は年間で約2%削減される見込みです。

今後、報徳パワーは、市内事業者や一般家庭などへの電力供給を進めていきます。また、家庭の太陽光発電システムで発電された電力の買い取りなどの準備も進めていきます。

## 再エネの地域内循環で 持続可能なまちへ



かけがわ報徳パワー(株)  
顧問 久保田 崇

掛川市は昨年、国の「SDGs未来都市」に選定されました。県内では静岡、浜松の両政令市に続き3番目の選定です。SDGsとは国連で採択された持続可能な開発目標のことですが、17ある目標の7番目が「誰もが使えるクリーンなエネルギー」です。かけがわ報徳パワーは太陽光や風力などの再生可能エネルギーにより生み出された電力の地産地消、さらにはその収益により地域課題を解決することを目指しています。みなさんの応援よろしく願いいたします。

これまでの連載地域新電力の記事はこちらから確認できます。



市ホームページ

## ラッピングパッカー車始動!



12月9日、市役所にて会社設立報告と、会社をPRするラッピングパッカー車の出発セレモニーが行われました。パッカー車には、出資者である中遠環境保全(株)のご協力により、自然との共生をテーマにしたデザインと、掛川の環境を守る想いを込めた会社愛称「KEEP」があらわれています。

当日は、聖マリア保育園の園児たちが手作りの横幕を掲げ、「青は1号車。海の生き物がたくさんいるよ。私も一緒に泳ぎたいな」「緑は2号車。お花や木があるよ。掛川の花のキキョウやキンモクセイもあるよ」「黄色は3号車。動物が描いてあるよ。私が好きなキリンもいるよ」「ピンクは4号車。鳥が描いてあるよ。掛川の鳥、ウグイスもいるよ」と元気にパッカー車を紹介したほか、かわいらしい歌を披露しセレモニーを盛り上げました。